

# 京都芸術劇場 ニュースレター 1場

News letter shunjiyuzakustudio 21

京都造形芸術大学主催 京都芸術劇場 毛利臣男芸術監督プログラム2008

2008年5月10日(土)

猿之助の世界 第四章〈市川猿之助と女形〉

2008年6月6日(金)～8日(日)

ATG Film Exhibition No.3

◀◀◀詳細は2・3ページへ

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催・関連企画

2008年5月22日(木)

観世榮夫追善能 空中庭園 創作能 ポール・クローデルの詩による

『薔薇の名 ー長谷寺の牡丹ー』

2008年度 公開連続講座

日本芸能史 他

◀◀◀詳細は4・5ページへ

学生スタッフ、活躍中! 他

◀◀◀詳細は6・7ページへ

Vol. 8 2008.4.

(2001年5月 京都芸術劇場「春秋座」柿落し「日本振袖始より」)



# スケジュール・ピックアップ

## 猿之助の世界 第四章〈市川猿之助と女形〉

2008年5月10日(土) 19時開演 京都芸術劇場 春秋座  
 出演：市川笑三郎(歌舞伎俳優) 毛利臣男(京都芸術劇場芸術監督)  
 京都芸術劇場 初代芸術監督市川猿之助のエネルギーに満ちた表現世界を映像、トークショー等で紹介する特別企画「猿之助の世界」。

演劇界に革命を起こした市川猿之助の表現世界を、二〇〇五年より今までに三回、春秋座から世界に向けて発信してきました。

二〇〇五年… 梅原猛氏と市川右近丈によるトークショー

(第一章〈スーパードンパルチネッタ〉)

二〇〇六年… ジョバンニ・アザローニ氏(ボローニャ大学教授)と市川右近丈によるトークショー

(第二章〈猿之助歌舞伎とジャポニスム〉)

二〇〇七年… 水谷由美子氏(山口県立大学教授)、柱本めぐみ氏(ソプラノ歌手)、松園洋二氏(作曲家)によるオペラ劇場(第三章〈猿之助とオペラ〉)

いずれも古典芸能に初めて接するお客様でも、平易で分かりやすく、とても勉強になると毎年好評を博しております。また、この公演をきっかけに歌舞伎に興味をもたれる方もたくさんおられます。そして二〇〇八年の今回は第四章といたしまして、「市川猿之助と女形」をテーマに開催いたします。

市川猿之助は古典歌舞伎・スーパードンパルチネッタの中で多くの女形も演じてこられました。今回、市川猿之助がどのような女形を演じ、女形と向き合ってきたかという事に注目します。ゲストには、女形を中心に活躍され、師匠市川猿之助と数々の舞台で共演してきた市川笑三郎丈を迎え、「猿之助の世界 第四章」において大いに語ります。

そして、市川猿之助が女形として出演された作品のダイジェスト映像上映、市川猿之助使用の女形コスチューム展示等々、盛り沢山の内容でさらなる魅力に迫ります。



本年公演チラシより



市川笑三郎



毛利臣男

京都造形芸術大学主催  
 京都芸術劇場 毛利臣男芸術監督プログラム 2008



昨年度の「猿之助の世界第三章〈市川猿之助とオペラ〉」公演模様から (撮影：小原雅弘)



### 「猿之助の絵日記展」再度開催決定!

2008年5月8日(木)〜16日(金)  
 京都芸術劇場 春秋座ホワイエ 入場無料

「猿之助の世界第四章〈市川猿之助と女形〉」の関連企画といたしまして、昨年十月に開催し、大変好評を得ました「猿之助の絵日記展」を京都芸術劇場ホワイエにて、再度開催することが決まりました!

市川猿之助が描き綴ってきた絵日記を公開する展覧会です。彼の歌舞伎にかける想いと、瑞々しい作品を堪能して下さい。



昨年展示の模様



昨年「猿之助の絵日記展」チラシより

# ATG Film Exhibition No.3

2008年6月6日(金)～8日(日) 京都芸術劇場 春秋座

入場料：500円(3日間通し券) 瓜生山学園生・教職員無料 主催：京都造形芸術大学 特別協力：葛井欣士郎

●上映作品+アフタートーク スケジュール  
モデレーター：葛井欣士郎(映画・演劇プロデューサー)×毛利臣男(京都芸術劇場 芸術監督)

6月6日(金) 開場17時30分 開演18時

『とべない沈黙』(1966年 黒木和雄監督作品 100分)

アフタートークゲスト：椿昇(京都造形芸術大学空間演出デザイン学科学科長)

6月7日(土) 開場13時30分 開演14時

『心中天網島』(1969年 篠田正浩監督作品 104分 R-18)

※18歳未満のお客様のご入場をお断りします

アフタートークゲスト：川村毅(京都造形芸術大学舞台芸術学科学科長)

6月8日(日) 開場13時30分 開演14時

『田園に死す』(1974年 寺山修司監督作品 102分)

アフタートークゲスト：榎本了彦(京都造形芸術大学情報デザイン学科学科長)

ATG Film Exhibition

昨年度、一昨年度と京都芸術劇場にて行われました「ATG Film Exhibition」

が好評に付き本年も開催されることになりました。

昨年は「京都」をテーマに、実相寺昭雄監督『無常』、大島渚監督『儀式』、黒木和雄監督『竜馬暗殺』、

高林陽一監督『金閣寺』の四作品上映いたしました。また、上映後には、榎本了彦教授と、映画学

科の林海象教授・佐藤真教授・高橋伴明教授とのアフタートークが行われ、最終日にはATGの

伝説的プロデューサー葛井欣士郎氏がトークショーにご参加されました。

本年は、黒木和雄監督『とべない沈黙』、篠田正浩監督『心中天網島』、寺山修司監督『田園に死す』

と三作品を上映いたします。モデレーターの葛井欣士郎氏が厳選の上推奨する、これぞATG

と呼べる三作品です。また、アフタートークには、葛井欣士郎氏、毛利臣男芸術監督と、本学より

椿昇教授、川村毅教授、榎本了彦教授がゲスト出演されます。

上映当日は歌舞伎様式の春秋座の舞台に巨大なスクリーンを

設置、昔ながらの三十五mm映写機から放たれる映像の周りには

赤提灯が並ぶという、他では味わえない上映会になります。

六〇年代後半から七〇年代前半の激動の時代に、新しい風

として大きく吹き荒れ、映画界に一石を投じたこれらの作

品を楽しんで下さい。



昨年度アフタートークの様相



『心中天網島』 © ATG



『とべない沈黙』 © 日本映画新社



『田園に死す』 © ATG

atg ATGとは？

ATG(日本アートシアターギルド)とは一九六一年に全国に十の加盟館を持つ芸術映画の上映館として誕生しました。初期のATGの主な活動は日本国内外の芸術映画配給・上映でした。後に個人製作になり小プロダクションと組んで、自前で日本映画も製作するようになります。作家たちから持ち込まれた企画を審査して、一千万円の資金をATGと監督で折半したことから、「一千万映画」と呼ばれるようになり、低予算ながらあらゆる分野の作家に映画製作の機会を与え、日本が世界に誇れる映画を多数発表してきました。

現在のミニシアターブームの礎を築いたATGの作品は、約三十年以上前に制作されたとは思えない斬新なスタイルで現在も私たちが魅了し続けています。

## ATGポスター 葛井欣士郎 コレクション展

2008年6月3日(火)～8日(日)  
京都芸術劇場 春秋座ホワイエ  
入場無料

「ATG Film Exhibition」の関連企画として、昨年、一昨年と開催いたしました「ATGポスター葛井欣士郎コレクション展」を本年も開催いたします。三島由紀夫・寺山修司・大島渚・岡本太郎・横尾忠則など現在も大きな影響を与える彼らの写真・ポスター・台本・手紙等を展示いたします。激動の時代を生きた彼らの情熱を感じ取ってください。



昨年「ATGポスター  
葛井欣士郎コレクション展」  
展示の様相

◎毛利臣男芸術監督プログラム2008  
「狼之助の世界第四章」  
「ATG Film Exhibition  
No.3」  
お問合せ先  
電話：075-791-8199  
(京都造形芸術大学 劇場企画運営室)  
チケットお問い合わせ  
電話：075-791-8240  
(京都芸術劇場チケットセンター)

観世榮夫追善能 空中庭園創作能

ポール・クローデルの詩による

『薔薇の名——長谷寺の牡丹——』

2008年5月22日(木) 18時30分開演

京都芸術劇場 春秋座

前売料金：S席 一般4500円/友の会4000円

／学生・ユース2500円

A席(2階席) 一般3000円/友の会

2700円/瓜生山学園生2000円

(当日は各500円増)

作・構成・演出：渡邊守章 作舞・節付：観世榮夫  
出演……観世鏡之丞(福州鼓山湧泉寺の尼僧)の霊

梅若晋矢(若き詩人) / 長谷世音(牡丹の精)

茂山逸平(間・福州鼓山の精)童子

地頭……河村和重

笛……一噌幸弘

小鼓……大倉源次郎

大鼓……亀井広忠

太鼓……三島卓

プレトク……松岡心平(東京大学大学院教授 能楽研究)

渡邊守章(京都造形芸術大学各員教授・演出家)



能の本を書くこと——新たな音楽劇を目指して

渡邊守章

一曲の能がどのようにして出来上がっていくのか。これは、素人が多少の稽古をした位ではとても窺い知ることは出来ない。こういう文脈で、新作能を書くなどということは、暴挙に等しいと長いこと考えていた。一九八七年と八八年に、観世榮夫と野村武司(現萬歳と「パルコ能ジャンクション」の実験的な舞台を作った)、レオタード姿の若者と本行通りのシテを同じ舞台上に載せて、文字通りに「脱離樂」でスリリングな冒険をしたが、音楽は録音を使った。能の囃子の生演奏で舞台を立ち上げ、しかも十日間の公演をすることなどは考えられなかったからでもあるが、まずは能の囃子を一つの音楽的オブジェとして捉えておきたかった。二度目の「薔薇」折口信天(死者の書)によるのリニューアル・ヴァージョンは、三月一日と二日にstudio21で上演して、幸い好評であった。しかしこれではまだ「音楽」と捨てて対決したことにはならないだろう。

「新作能」というものに対して否定的であった私が、故観世榮夫氏の勧めでクローデルの詩篇をもとに新作能を書くことに完成させる集大成的戯曲「薔子の靴」初版全曲版の翻訳に取り掛かっていたから、謂わば「薔子の靴」を書き進めているところから始まった。一方には、クローデルが東京で書いた詩篇のうち「内濤十二景」という、その頃詩人大使が日課としていた皇居内濤の散策に事寄せて、詩人の「内心の劇」と日本と出会った「瞑想の詩法」とを、水鏡に映る影の戯れのようにして歌った詩篇があった。それに、当時書き進めていた集大成的戯曲「薔子の靴」の中で、ほぼ同じ時期の執筆になる「二日目」つまり第二部の、「オリオン星座の姿をとった聖ヤコブ」が天上界で

する独白とを繋げて見よう。しかしこれだけでは「劇的な物語素」に欠ける。そこで、同じく「二日目」の超自然的な情景であり、初演以来カットされるか、納得のいかない演出で演じられていた「二重の影」の場と、それに続く「月」の場を、中央に配すことにしたのであった。

フランスの詩作・劇作を日本へ導入するという一方通行のペクトルではなく、それを日本からフランスへと送り返す往復運動。それは、この大学の舞台芸術研究センターの研究課題の一つ、越境する伝統の極めて実験的な実践に他ならない。「内濤十二景」あるいは「二重の影」は、以後東京・パリに続いて京都芸術劇場春秋座でも公演し、創作能としては異例の上演回数を経験する幸運に恵まれた。しかし作者・演出家としては、本格的な「序の舞」入り複式夢幻能に挑む必要があった。

老境に差し掛かった劇詩人が、奈良初瀬の観世音の寺で、咲き誇る牡丹の薄紅に薔薇の記憶を読むという、日本風短詩形の詩集「百扇帖」の名作。実は、クローデルが一九〇〇年から五年近く、中国福州で美しい人妻との不倫の恋に身を焼いたその舞台も、鼓山湧泉寺という観音寺であり、彼女の愛称はローザつまり「薔薇」なのであった。このりくくの初瀬の牡丹」から遡るようにして、「薔薇の名」をもつ福州の禁断の恋が、能舞台という「記憶の劇場」で演じられるのだ。

この「禁じられた恋」を戯曲に仕組んだのが、クローデル中期の傑作「真昼に分かつ」であり、そのヒロインの名はイゼと言う。そこには、ワーグナーの「トリスタンとイゾルデ」の記憶と共に、アテラスの岩屋戸隠れの神話があるというのが、研究者としての私の説であり「つまりイゼ」伊勢である。こうして、起源の異なる複数の神話的記憶が呼び出され、詩人の「真昼時の劇」を読み解くことなのである。

能は音楽劇として、楽器の「テクノロジー」の進化を徹底的に断念あるいは拒否した表現である。その意味では、まさに「テクノロジー」の進化論を体現するワーグナー音楽劇の対極にある。しかし能の、テクノロジーには極めて禁欲的な音楽の「身体性」とその強度によって、堂々たる音楽劇を立ち上げることは可能である。「薔薇の名——長谷寺の牡丹」では、「薔薇の名」で呼ばれたヒロインがイゾルデを超えて、宇宙的な深淵へと開かれた記憶の深層で、「禁じられた恋」を誦う。

いかにも能は、世界に類を見ない「記憶の演劇」である。しかもその記憶の「深層」へと我々を導くものこそ、能の詞章とその音楽に他ならない。六百年の伝統が、極めて現代的な「楽劇」の可能性を秘めているのだ。そして、世阿弥が強調した「舞歌の二曲」を借り言うならば、それはまた、類稀な歌舞劇でもあるのだ。

今は故人となった榮夫氏の作曲として、抜群の強度を備えた音楽が、鏡之丞の優美で鮮やかな序の舞へと昇華していく光景。それは、現代における能の創造的可能性を、暗示する以上に雄弁に語っているだろう。

『みやこで義太夫を楽しむ』

2008年7月5日(土) 14時開演

京都芸術劇場 春秋座

演出：義太夫「堀川猿廻しの段」

(「近頃河原の遠引」)

出演者

浄瑠璃竹本綱大夫(間)園宝、豊竹昌勢大夫

三味線 鶴澤清治(間)園宝、鶴澤清二郎、

鶴澤清志郎

前売料金：一般3000円/学生・ユース1000円/瓜生山学園生2000円(全席自由席・当日は各500円増)

田口章子企画 みやこシリーズ第四弾です。義太夫節は江戸時代に人形と結びついて人形浄瑠璃(文楽)として発展しました。今回は語り物として義太夫節を堪能するために、太夫と三味線の演奏による素浄瑠璃

でお楽しみいただきます。

◎公演チケットの購入申込先  
京都芸術劇場チケットセンター  
電話 075-791-8240  
◎主催・お問い合わせ  
京都造形芸術大学  
舞台芸術研究センター  
電話 075-791-9437  
FAX 075-791-9438  
WEB <http://www.k-pac.org/>

(京都造形大学特任教授 舞台芸術研究センター所長代行 演出家)

# 日本芸能史 — 受講生募集中 —

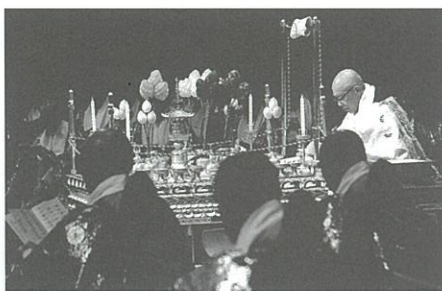
前期(全12回) 2008年4月14日～7月7日  
 後期(全12回) 2008年10月6日～2009年2月2日  
 毎月曜日 16時20分～17時40分  
 会場：京都芸術劇場 春秋座 受講料：各期1万円

本講座は二〇〇二年度より始まり、本年で七回目を数える大変人気の高い公開講座です。毎回の講座には、その分野の第一線で活躍している専門家を講師に迎え、実演をまじえながら分かりやすい解説を行っていただきます。

本年のキーワードは「日本文化における古典芸能」渡来の芸能と固有の芸能。各講座でそれぞれの芸能の知識を深めていただけるだけでなく、連続講座を通し、日本における伝統芸能の幅の広さ、多様さを実感いただける内容となっております。

コーディネーター／田口章子

(京都造形芸術大学芸術学部教授・舞台芸術研究センター主任研究員)



4月28日「白雪山」(比叡山の白雪山)／撮影：森田拾史郎  
 ※写真は日本芸能史で実演する舞台とは異なります



11月10日「京舞」講師 井上八千代

5月19日「舞楽」(撮影：森田拾史郎)  
 ※写真は日本芸能史で実演する舞台とは異なります



## 〔前期〕 渡来の芸能

- 4月14日 総論 渡来の芸能 諏訪春雄
- 4月21日 歴史 楽所と曲所(理論) 木戸敏郎
- 4月28日 聲明(実演) 天台宗総本山比叡山延暦寺法儀音律研究部 解説木戸敏郎
- 5月12日 雅楽(実演) 芝祐靖
- 5月19日 舞楽(実演) 天王寺樂所雅苑会(解説木戸敏郎)
- 5月26日 曼茶羅(理論) 鎌田東二
- 6月2日 絵解き(実演) 関山和夫
- 6月9日 方相氏(実演) 平安神宮
- 6月16日 万歳(尾張万歳/実演) 北川幸太郎
- 6月23日 来訪神儀礼(理論) 諏訪春雄
- 6月30日 琵琶(実演) 上原まり
- 7月7日 淡路人形浄瑠璃(実演) 淡路人形座

## 受講手続きについて

◎受講資格：学習意欲のある方なら、どなたでも受講していただけます。  
 ◎申込受付：お電話またはファクシミリでご予約ください。本学指定の申込用紙をご案内いたします。所定事項をご記入の上、本学宛てに郵送、ファクシミリまたは直接持参にてお申し込みください。その際、手続きはお申し込み日から一週間以内にお申し込みいただきます。一週間以内に手続きやご連絡のない場合は、キャンセル扱いとさせていただきます。予めご了承ください。  
 ※一旦納入いただいた受講料は返還いたしかねますので、予めご了承ください。

## 〔後期〕 固有の芸能

- 10月6日 総論 固有の芸能 諏訪春雄
- 10月20日 能(実演) 片山清司
- 10月27日 文楽(義太夫/実演) 竹本綱大夫 鶴澤清一郎 聞き手 田口章子
- 11月10日 京舞(実演) 井上八千代(聞き手 田口章子)
- 11月17日 歌舞伎(理論) 田口章子
- 12月1日 落語(実演) 桂福團治
- 12月8日 狂言(実演) 茂山忠三郎 茂山良暢
- 12月15日 壬生狂言(実演) 壬生大念仏講員
- 12月22日 常磐津(実演) 常磐津都島蔵
- 1月19日 歌舞(実演) 春日大社南都楽所(解説 木戸敏郎)
- 1月26日 清元(実演) 清元清寿太夫
- 2月2日 日本舞踊(実演) 坂東温子(聞き手 田口章子)

※開講日時は記載の通りですが、変更やお知らせのある場合は会場郵便電話等にてご連絡いたします。講師の都合や天災、交通機関の不運等により、やむを得ず、休講になった場合、補講はできません。また、その際の受講料は返還いたしかねますので、予めご了承ください。また、センターでは、講義を記録するため撮影を行います。それらをパンフレット、大学案内等の広報用に使うことがあります。予めご了承ください。

◎お問い合わせ 資料請求先  
 京都造形芸術大学 教学事務室 瓜生山エクステンションセンター  
 (八間館NA棟1階)  
 〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2の116  
 電話 075-791-9124 / FAX 075-791-9127  
 受付/平日9時～17時(土曜16時まで)  
 休日/日曜日・祝日・入学試験実施日・年末・年始

## 速報!

『舞台芸術』13号のおしらせ  
**特集Ⅱ 太田省吾の仕事**  
**— 未来への応答 —**

(企画・編集) 京都造形芸術大学舞台芸術研究センター、発行 角川学芸出版、発売 角川グループパブリッシング、定価 2100円

舞台芸術研究センターの機関誌『舞台芸術』13号では、昨年7月に亡くなった劇作家・演出家の太田省吾の特集を掲載します。未発表論考のほか、宇野那一、西堂行人、佐伯順子とのシンポジウム「演劇に未来はあるか」を採録。その他にも、代表作『小町風伝』photo+テキスト(40頁)、全作品年譜のほか、国内外の第一線で活躍するアーティスト・批評家(岡田利規、三浦基、内野儀、建畠哲ほか)による太田省吾論など、盛り沢山な内容となっております。ぜひご覧ください!

※全国の大型書店で4月11日頃発売予定。  
 ※ご購入申込み・お問い合わせ先  
 京都芸術劇場チケットセンター  
 電話 075-791-8240

## 刊行物のご案内

# 学生スタッフ活躍中!

演劇・ダンス・コンサート・シンポジウム等さまざまな催し物が行われている京都芸術劇場では、京都造形芸術大学の在学生・卒業生たちがスタッフとして活躍しています。

大学に入るまで、劇場バックステージなど立ち入ったことは無い、という学生がほとんどですが、研修で知識や技術を身に付け、劇場スタッフとしての経験を重ねる毎に、プロとしての自覚が生まれているようです。

以下、学生スタッフが関わっているフロントスタッフ・SSS（春秋座ステージスタッフ）・スタチオ安全掛について、ご紹介します。

## 学生スタッフたちへの質問

- Q1. スタッフになろうとしたきっかけは？
- Q2. 難しかったことは？
- Q3. 印象に残ったことは？
- Q4. 劇場（春秋座/studio21）のお勧めポイントは？

## フロントスタッフ

登録者数：約50名

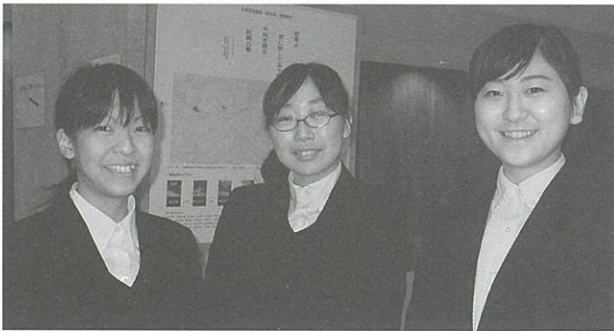
仕事内容：フロントスタッフは、チケットもぎり・客席誘導・劇場扉開閉など、劇場で最初にお客様をお迎えする大切な役割です。特に、開場から開演までの約三十分間は、いかにお客様をスムーズにご案内するか、緊張と戦いながらも笑顔の接客を心がけています。毎回終演後にミーティングを行い、反省点を自分たちで挙げ、次回に活かすよう努めています。

Q1→大学に併設された劇場で、学生が参加できる機会があるなら、是非やりたい!と思った。(裏さん) / 将来的には舞台の裏方で働きたい、そのためには表の仕事も知っておきたかったから。(今井さん)

Q2→お客様は一人一人違うので、接客に一つの答えがないところ。(今井さん) / お客様から見ると、自分はスタッフの一員。たぶん学生ということで大目に見てもらっているが、鳥屋(とや)花道つきあたり部分の説明を求められたときは答えられず反省。(裏さん)

Q3→お客様から劇場をほめられたこと。劇場に興味をもってくださる色々と質問をされた。また、気軽に話し掛けてくださる方も多く、嬉しい。(西村さん)

Q4→舞台のつくり。歌舞伎ができる劇場なので、盆やセリなど、仕掛けがたくさんあります!(今井さん) / 宙乗り機構があること。そして、何より学生スタッフが働いているところ。(裏さん) / プロから学生まで公演内容の幅が広く、けっこうすごいことをやっています。そして、公演帰りを見る大階段からの夕焼けがとても綺麗でお薦めです!(西村さん)



(右より)  
西村麻生さん(映像・舞台芸術学科四回生)  
裏加奈子さん(歴史遺産学科三回生)  
今井尚美さん(舞台芸術学科二回生)

## SSS（春秋座ステージスタッフ）

登録者数：約100名

仕事内容：SSS（春秋座ステージスタッフ）は、主に春秋座にて行われる公演の際、プロのスタッフをお手伝いします。仕事内容は舞台の準備(仕込み)や本番中の進行補佐、片付け(バラシ)など。登録前に講習や実習を受け、学生のレベルに応じた作業に参加することができます。ステップアップすれば、技術担当者のアシスタントとして学生アルバイトのチーフを務めることも。

学科に関わらず、舞台に興味のある学生にとってプロの現場を体験・共に作業できる貴重な場です。

Q1→プロの現場に関わってみたかったです。(田中倫子さん・映像・舞台芸術学科四回生 以降同し)

Q2→プロのスタッフさんが、舞台用語(例えば「それはけて」)にそこにあるものをよけてほしい、等を使ったときにうまくわかりませんでした。慣れていくうちにだんだんとわかるようになりました。

Q3→ファッション・インスタレーションのモデルオーディションの仕込みを手伝ったとき、普段は舞台の現場(お芝居やダンス)しか見たことがなかったもので、ファッションの世界って違うなあ、と思いました。舞台のお仕事だと、ストーリーが重要だったり、そのなかに美術さんや照明さんが深く組み込まれていたります。ファッションだと、モデルさんが主体。モデルさんをどうみせるか、ということを中心に進んでいくのがおもしろかったです。

Q4→裏方さんなのですが、劇場の技術スタッフの方がおもしろいところ。SSSによく参加していると顔を覚えてもらえるし、いろいろなお話も聞けます。

## スタチオ安全掛

登録者数：13名

仕事内容：studio21での学生公演(舞台芸術学科の授業発表公演・自主企画公演)、行事の際の安全監督、作業補助などを行います。メンバーは学科卒業生で構成され、在学中に十分な現場経験を積んだ者が、危機管理などに関しての研修・実習を受けた上で登録されます。

プロのスタッフとして劇団、外部の劇場で活躍しているメンバーも多く、更に知識を増やしていく中で、在校生に近い目線からアドバイス出来るよう、日々精進しています。

Q1→在学中に経験したことを生かせると思ったので。(高原文江さん 卒業生) / お世話になった学科やstudio21への感謝の気持ちもあり、学生を見守る立場を買って出ました。(松本さん)

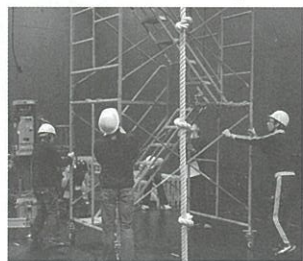
Q2→どこまで教えてどこまで自分たちで考えてもらったほうがいいのか判断すること。(高原さん) / 作業員でなく見る立場になるので、今まで自分の感覚で判断していた危険度をうまく伝えるにはどうしたらいいのか少し悩みました。(松本さん)

Q3→なにか一つの事というよりも、十月から二月くらいまでが公演ラッシュで怒涛のように日々が過ぎていったこと。(松本さん) / 三回生の時に、舞台監督を三つ掛け持ちでやろうとしたら、その無謀さゆえ、太田省吾先生に頭を叩かれたこと。(磯村令子さん 卒業生)

Q4→studio21では、色々工夫して考えて実践できること。(高原さん) / 春秋座では、八百人動員できること。そして、それに対応できるお手洗いの数。(濱見さん)



(右より) 濱見彰映さん(卒業生)  
松本恵吾さん(卒業生)



SSS

# 京都芸術劇場友の会 舞台裏見学会のご案内

温暖化といいながらやっばり寒かった京都の冬も終わり、まぶしい春がやってきました。皆様、いかがお過ごしですか？

春秋座は今年もさまざまな催しを提供してまいります。今回

は、公演の時には見ただけでない、劇場の舞台裏を覗いていただく機会を設けたいと思います。

ご存知のとおり、春秋座には盆、せり、すっぽんという歌舞伎小屋三種の神器がそろっています。場面転換や役者の登場シーンを劇的に見せるための趣向ですが、これらの舞台機構の裏側や照明センタールームなど、普段は入ることの出来ない場所にお連れいたします。

見学後は、劇場スタッフと友の会会員の皆さんとの交流を深めるために、楽屋での茶話会を予定しております。

ぜひぜひ、ご参加ください！

日時：2008年4月25日(金)14時開始〜15時30分終了予定  
参加資格：京都芸術劇場友の会会員様(ご同伴1名様まで可)

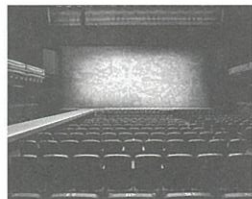
参加費：無料 定員：30名

お申し込み方法：お電話またはファックスで4月15日まで劇場チケットセンターへお申し込みください。ファックスの場合は会員氏名・会員番号・お電話番号・同伴者氏名と「舞台裏見学会希望」とご記入の上、同センターへお送りください。

京都芸術劇場チケットセンター

電話075・791・8240

ファックス075・791・9438



## 過去の公演から……

舞台芸術研究センター主催

維新派『No. 1』(彼と旅をする20世紀三部作 #1)

(2008年2月2・3日/京都芸術劇場 春秋座)

〈額縁〉の向こうに維新派が描いた〈歴史〉は、やっぱり巨大だった

森山直人(舞台芸術研究センター主任研究員)

維新派が、とうとう春秋座にやってきた。なにしろ、すでに国内外での評価を十分に得たカンパニーの、はじめての春秋座公演なのだから、満を持してのといべきだろう。客席も大入りで、はじめてこの劇場にやってきた若い客層もかなりいたという。今回上演された作品は、〇七年七月から半年にわたったツアアの最後を飾る舞台だが、私は大阪公演をすでに見ていた。展開は一部変更もあったが、全体としての見ごたえには変わりなかったように思う。南米の日系移民を主題としたこの作品で、何より印象的なのは、いつもどおりのモノトーンを基調にした五拍子、七拍子の異世界が、巨大な装置の転換とともに極彩色に染まる瞬間である。たとえば手前にカフェ、窓の向こうのひまわり畑に、群衆の革命旗がたなびく場面。そこに噴出していたのは、干からびたイデオロギーではなく、もつと繊細だが強い情動、カラフルな記憶の塊りだった。



見終わって感じたこと。松本雄吉が耳を澄まそうとする〈歴史〉の声―その声の主はやはり巨大であったということに尽きる。その巨大さは―〈彼〉と呼ばれる五メートルの人形がそのユーモラスな形象なのだが―おそらく私たちの上にいまなおのしかかる〈近代〉の巨大さであろう。その巨大さに比べると、やはり春秋座という空間が、若干小さく見えたことは否めない。また、大阪公演でははつきり見えた「手作り感覚」が、完璧な劇場機構に吸収されてしまった部分があったとはいえない。舞台は、やはりデリケートなものである。

## 《瓜生山草》

音楽は時間の芸術。文字や記号で表現したのが楽譜。楽譜には演奏しない時間、休符がある。休符の後でよく転調したり、テンポが変わったりする。休むというより次の準備の時間のような。つまらない演奏では、休符で本当に休み、気が抜けている場合が多い。

「休む」には「次の仕事の準備」という意味が含まれているのかな。続けて仕事をするよりは適当に休みを挟んだほうが効率上がるのは周知の事実。

肉体の休みは文字通り人が木にもたれるようなこと。精神的にも木の精を浴びるのはリラックスにつながる。

人生にも楽譜のように休符が描いてあれば楽だけども楽譜は自分で描かないと、ね。(岩田)

京都芸術劇場  
Vol. 8  
2008.4.

発行：京都芸術劇場

発行人：毛利臣男 八角聡仁

編集人：岩田廣明

デザイン：清水俊洋

発行日：二〇〇八年四月一日

月	日	曜日	開演時間	催し物	内容	会場	問合せ先	チケット販売	
4月	14	月	16:20	2008年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター:田口章子 【前期】第一回 総論 渡来の芸能 諏訪春雄	春	京都造形芸術大学 瓜生山エクスプレッションセンター TEL 075-791-9124 (平日9時~17時/土曜9時~16時)	公開授業 前期10,000円 ※申込は問合せ先へ	
	21	月	16:20	2008年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター:田口章子 【前期】第二回 歴史 楽所と曲所(理論) 木戸敏郎				春
	28	月	16:20	2008年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター:田口章子 【前期】第三回 聲明(実演) 天台宗総本山比叡山延暦寺法儀音律研究部(解説/木戸敏郎)				春
5月	8	木	10:00	「猿之助の絵日記展」	市川猿之助氏が描き綴ってきた絵日記を公開 ※5月16日(金)は16:00まで	春	京都造形芸術大学 劇場企画運営室 TEL 075-791-8199	入場無料	
	16	金	16:30						
	10	土	19:00	毛利臣男芸術監督プログラム 猿之助の世界 第四章 〈市川猿之助と女形〉	※詳細は2ページをご覧ください。	春	京都造形芸術大学 劇場企画運営室 TEL 075-791-8199	入場無料	
	12	月	16:20	2008年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター:田口章子 【前期】第四回 雅楽(実演) 芝祐靖	春	※4月の問合せ先・チケット欄をご覧ください		
	19	月	16:20	2008年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター:田口章子 【前期】第五回 舞楽(実演) 天王寺樂所雅亮会(解説/木戸敏郎)	春			
	22	木	18:30	舞台芸術研究センター主催 観世楽夫追善能 空中庭園 創作能 ポール・クローデルの詩による 「薔薇の名 ー長谷寺の牡丹」	作・構成・演出:渡邊守章 ※詳細は4ページをご覧ください	春	舞台芸術研究センター TEL 075-791-9437 京都芸術劇場チケットセンター TEL 075-791-8240 (平日10時~17時)	【京都芸術劇場チケットセンターにて販売中】 前売 S席一般4,500円 友の会4,000円 学生・ユース 2,500円 A席(2階席)一般3,000円 友の会2,700円 瓜生山学園生 2,000円 当日 各価格より500円増	
	26	月	16:20	2008年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター:田口章子 【前期】第六回 曼荼羅(理論) 鎌田東二	春	※4月の問合せ先・チケット欄をご覧ください		
	2	月	16:20	2008年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター:田口章子 【前期】第七回 絵解き(実演) 関山和夫	春			
6月	3	火	10:00	「ATGポスター 葛井欣士郎コレクション展」	ATGプロデューサー 葛井欣士郎氏所蔵のポスター、写真、台本などを展示	春	京都造形芸術大学 劇場企画運営室 TEL 075-791-8199	入場無料	
	8	日	16:30						
	6	金	18:00	毛利臣男芸術監督プログラム	6日 黒木和雄監督作品「とべない沈黙」 7日 篠田正浩監督作品「心中天網島」(R-18)※18歳未満の方のご入場をお断りします 8日 寺山修司監督作品「田園に死す」 ※詳細は3ページをご覧ください。	春	京都造形芸術大学 劇場企画運営室 TEL 075-791-8199	【京都芸術劇場チケットセンターにて4月7日より発売開始】 500円(3日間通し券)	
	7	土	14:00	ATG Film Exhibition No.3					
	8	日	14:00						
	9	月	16:20	2008年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター:田口章子 【前期】第八回 方相氏(実演) 平安神宮	春	※4月の問合せ先・チケット欄をご覧ください		
	16	月	16:20	2008年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター:田口章子 【前期】第九回 万歳(尾張万歳)(実演) 北川幸太郎	春			
	23	月	16:20	2008年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター:田口章子 【前期】第十回 来訪神儀礼(理論) 諏訪春雄	春			
	28	土	15:00	能と義太夫による 謡がたり 「隅田川」	出演:野村四郎 豊竹咲大夫 他	春	豊竹咲大夫事務所 TEL 06-6764-6737 京都芸術劇場 TEL 075-791-9207	【京都芸術劇場チケットセンターにて4月7日より発売開始】 一般(1階席・指定)5,000円 学生(2階席・自由)1,500円 友の会(1階席)4,500円 造形大生(1階席・指定)4,500円/(2階席・自由)1,500円	
	30	月	16:20	2008年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター:田口章子 【前期】第十一回 琵琶(実演) 上原まり	春	※4月の問合せ先・チケット欄をご覧ください		

# 2008年4月~6月 京都芸術劇場スケジュール

凡例 — 春 春秋座公演 S studio21公演 指定席 自由席 未就学児の入場も可

\*特に表記のない場合、前売と当日は同じ料金 \*ユースとは、学生または25歳以下対象

チケットお問合せ先

京都芸術劇場チケットセンター … TEL:075-791-8240 (営業:平日10:00~17:00/公演開催日)

京都造形芸術大学  
京都芸術劇場

Shunjuza / Studio 21

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

tel 075-791-9207 fax 075-791-9438

URL <http://www.k-pac.org/>

